



介護に関する最新情報を 地域へ届ける懸け橋として

●ホテル経営から高齢者事業へ

株式会社有楽は、静岡県伊東市で、介護付有料老人ホーム「ウェルケア伊豆高原」と、伊豆高原リゾートホテル「ロビング」を運営しています。

創業者である私の父は、伊豆急行が開通したばかりの伊豆高原に新たな可能性を見出し、その後、テニスブーム真っ只中の昭和56年、テニスコート付きペンションを開業しました。その後、公益財団法人日本テニス協会の公認大会を約10年間運営したほか、テニスのテレビ番組のロケ地としてもご利用いただき、現在はインドアテニスコート4面、屋外コート8面と、合計12面のテニスコート、172人の宿泊が可能な客室を有しています。宿泊のみならず、子どもからシニアの方までを対象にテニススクールを開講し、地元のみなさまにも楽しんでいただいています。

ホテル経営で順調に事業を拡大していた父は、その後、それまで培ってきた食事などのサービスや運営ノウハウを生かして、「人生の最終章を預かる」社会貢献をしようと、高齢者事業を計画。平成14年12月、ウェルケア伊豆高原を開設しました。

しかし、オープンを見届けたかのように父は他界し、まったく予想外の展開のなか、次男の私が株式会社有楽の代表取締役として、またウェルケア伊豆高原の施設長として、父の遺志を受け継ぐことになりました。

幸い、経験豊富な看護師や介護スタッフの協力、そして入居者の理解をいただき、1年後には31室が満室となりましたが、当時36歳だった私にとって、大変大きな試練であったことを覚えています。

●尊厳ある暮らしをささえる想い

私たちは開設以来、入居者の暮らしのために、「当たり前前を当たり前にする」ことを心掛けています。たとえば入居の際、医療依存度がかなり高い方であっても、こちらで暮らしたいと望まれるならばお断りせず、なんとか暮らせるように看護師や家族と相談を重ねます。

看取りについても同様です。これこそが、私たちにできる人生の最終章のお手伝いだと考えていますが、この理念は、高齢者住宅経営者連絡協議会(高経協)の目的である「終身にわたり、尊厳ある暮らしをささえる」に通ずるものであり、私自身も大変共感するところです。

●持ち帰った最新情報で地域を活性化

私のように1施設を運営している経営者は、高経協会員のなかでは珍しく、多くの方は多数の施設を展開しています。ですから、定例会等を通して、ほかの施設での実情や対応策、先駆的な試みを知り、当社のホームを自己評価できることは大変有意義です。

また高経協で得られる最先端の情報や課題を、地元伊東市に持ち帰り、地域の高齢者福祉、介護保険事業の発展と活性化にも活かしていく、懸け橋としての役割をしていきたいと考えています。

現在、伊東市介護保険事業者連絡協議会(加盟法人49)の会長を務めています。今年4月には、市の医師会、歯科医師会、行政の方々、および当協議会会員の介護保険事業者の方々をお招きして、「伊東市における地域包括ケア」をテーマにしたシンポジウムを行いました。このような機会を設けることが、市内の事業者が伊東市の地域包括ケアを考えるきっかけになればと思っています。

葛城 武典

かつらぎ・たけのり

●PROFILE

株式会社有楽代表取締役。伊東市介護保険事業者連絡協議会会長。高齢者住宅経営者連絡協議会平成26・27年度リビング・オブ・ザ・イヤー実行委員、同身元保証関連委員会委員。

